

## 令和元年度倉敷市立自然史博物館協議会議事要旨

令和元年8月1日(木)

14:00~16:00

自然史博物館2階連絡室

出席者 荒木健委員, 鴨井香織委員, 小橋理絵子委員, 小林祥一委員, 島岡浩恵委員, 高木盛雄委員, 田口明子委員, 地職恵委員, 三宅誠治委員

欠席者 堀江明香委員

事務局 井上正義教育長, 三宅健一郎生涯学習部長, 高嶋幸慶館長, 江田伸司主幹, 奥島雄一主幹, 武智泰史主任, 狩山俊悟学芸員, 石井陽子副主任

傍聴者 なし

### 1 開会

井上正義教育長の開会あいさつ後、委員自己紹介、事務局職員紹介の後、議事に入った。

### 2 議事

#### (1) 平成30年度事業実績・決算について

事務局より資料をもとに説明、質疑応答なし。

#### (2) 平成31年度事業計画・予算について

事務局より資料をもとに説明、質疑応答なし。

#### (3) 倉敷市立自然史博物館中期計画(案)について

<議 長> 続きまして、倉敷市立自然史博物館中期計画についてご説明をお願いします。

今回初めてで、前回いらっしゃらなかった方もいると思うので、運営方針の要旨を少し説明して頂いてからの方がいいと思います。

<事務局> 担当からご説明申し上げます。本題に入ります前に、今日お手元にあります博物館報の24ページをご覧くださいましたら、日付が平成30年12月7日付のですね、倉敷市立自然史博物館の運営方針と資料収集方針というものが初めて館報に掲載されております。これの素案を今年の協議会の方でご提示して、ご意見をいただき、その後調整を図って策定にこぎつけたものでございます。なんでこういったものを今更になってしまいますが、作ったのかといいますと、文部科学省の方から望ましい博物館の姿として運営方針を定めなさいというのがありまして、それに基づいて運

営方針を、これまでも当館の方は設立の理念があったのですが、きちんと文字で、公開するというふうにしたわけです。運営方針は定めただけではだめでその方針を実現するために中長期計画を立てて取り組みなさい、という指針が出されております。当館の方はそれに基づきましてこの度中期計画で自己評価を行なっていこうと考えております。資料4の方を出していただきたいのですけれども、左端の大項目の使命までは運営方針のところの使命をそのまま入れております。ちょっと読ませていただきます。集めて未来につなげる。見出しだけ読ませていただきます。教養文化の向上を目指す。ひとづくりを担う。連携して共に成長する。次のページにいきまして、より魅力的な博物館を目指さす。この大きく分けて5つの使命をもって事業に取り組むということです。それらの使命を実現するために、そのあとの中項目、具体的な評価指標をこの度考えて取り組もうとしています。評価指標の方は完全に数値化できるものが望ましいと言われておりまして、数値が出せるものを考えています。ただ、各評価指標の隣、参考値として2017年と出ているデータ、それから現状値として2018年のデータを入れておりますが、今年度2019年から5年間を1回目の中期計画に入れているのですが、その次の目標値、5年間での目標値のところに目標とする数値を入れているのですけれども、自然史博物館という組織としての目標値を設定するのがふさわしくないと思われまして我々が現時点で考えているものにはバーを示しております。ただ、変遷を数値を見ながら気にしていこうという思いです。事前にお送りはさせていただいているのですが、文字も多くて項目も70項目にわたっておりますので、全部細かく見ていただくのは難しいかと思うのですけれど、お気づきの点があればご教授いただきまして、いただいた意見をもとに調整をして、出来上がったもので運用を始めたいと思っております。補足が2つあります。既に目標値が現在でも目標値に達していると思われる項目のものが中にはございまして例えば、25番26番当たりの博物館まつりあたりなのですけれども・・・。来場者数、満足度が非常に高い数値を現状いただいております、もっともっと気持ちとしては上を目指したいのですけれども、現状この建物でやるところではこれ以上人数が増えたら、正直危険も伴うようなことも考えられますので、現在のところでは大体目標値に達しているものと考えております。そういうものにつきましては、現状維持というのを目標としているものもあります。それから、一部評価指標のところではグレーの網掛けをしているところがありますが、そのところは年度ごとの数値ではなくて、過去からの累計の数値を評価値として採用しております。

< 議長 > ありがとうございます。中期計画につきまして、何かご意見ご質問等ありましたらお願いします。いかがでしょうか。ずいぶん積極的にされていて・・・。

< 委員 > ちょっとお伺いしてもよろしいでしょうか。むしむし探検隊は何番でしょうか。すごいと思うんですけど、むしむし探検隊で高校生で在籍されていた方はずっと前から幼い頃からこちらに在籍されていた方もいらっしゃるのでしょうか。

< 事務局 > あります。小学生ぐらいから博物館の行事に参加していて、むしむし探検隊は5年生以上高校3年生までですから5年生になったら、むしむし探検隊に入って高校

を卒業するまで活動をしてそれから次の進学先を生物・環境系を選んだという子もいますし、高校生から入ってきている子もいます。

<委員> わりと幼い頃から参加するというのがいいことだなとちょっと思いました。

<議長> もうちょっとたくさん増えるといいですね。

<委員> 私からちょっとよろしいですか、ちょっと補足させていただきますけれども、むしむし探検隊の評価ですが人数だけでしか評価されていなんですけれども。実は私留頭の挨拶でも変な学会のメンバーですということを言いましたけど全国の学会なんかは毎年あるんですけれども、参加したりあるいは評議委員会が年に1回と出ているのですがそうすると全国から蝶や蛾の好きな変な連中が出ているんですけれども、ほとんど毎回と言っていいほど話題が出るんですよ。「倉敷の自然史博物館すごいね、岡山県すごいね。」と。こういった子どもたちを組織的、専門的にまとめてやってる団体は全国的にないんですよ。イベントとして年に1回子どもたちを集めて昆虫採集しましょうというのは、結構あるんですけど、未来の昆虫学者を育成しようなんていうことを小学生から対象としてやっているのは、全国的に少なくとも私は聞いたことがない。会う人ごとに「岡山すごいね。」と言われます。

それほど誇れることで、よくテレビなんか見ていると、各地域の教育の番組があるんですけれども、全国版として十分取り上げられていてもよい、そういう活動だと思う。倉敷でやりながらたぶん倉敷の人が評価していない、ちょっと残念な面があるのかなと。それほど価値があると思います。自慢すべきことだと思います。

<委員> むしむし探検隊の話が出ましたが脊椎動物グループというのが何年くらい前からか、友の会の中のグループがありまして。博物館のグループではなくて友の会のグループですかね。どちらからの派生グループかわからないのですが、友の会に含まれていますか？

<事務局> 友の会です。

<委員> その脊椎動物グループの中も結構小さいお子さん、小学生中学生もいて高校生、今はいるのか分からないんですが、私が知ってる限りでは高校生がそちらの生物・環境系に進んだ子が一人います。会があれば20人くらい集まってくる団体に成長しているようなので、むしむし探検隊、脊椎動物グループと入れていいのではないかなという気がします。どうでしょうか。

<事務局> そうですね。今現時点でのお答えなんですけど、脊椎動物グループは博物館側の制約を受けていないんです。むしむし探検隊は博物館で名簿を作って、きちっとしてるんですが、脊椎動物グループのメンバーはメーリングリストにアドレスを教えてください入っている人という管理しか友の会の脊椎動物グループでやっていないんです。で、現在今年の春に聞いたところでは約70名の登録があって、おそらく実質20~30名くらい熱心な活動メンバーがいらっしゃいます。現在のやり方では誰が卒業してどこに行ったかという、はっきりとした管理がこちらではちょっと出来にくいんです。活動自体は、30番のところの博物館の脊椎動物の標本作製するボランティアという趣旨でやってますのでここに活動実績としては入ってきているんです。

確かに将来、脊椎動物グループがきっかけで上の方に進学される方はいらっしゃるかもしれませんが、現在のところでは把握出来ていない状況ですので、ここはちょっと今後の課題とさせていただきます。

<議長> よろしいですか。では、どうぞ。

<事務局> まあ、これが最終的な確定というものではありませんので。将来的には項目を増やしていったり、随時要らなくなったものは当然削除しないといけませんし、必要になってきてこれは入れた方がいいと思われるものはその段階で必要な手続きを取ってこれに追加したり随時変えて行こうと考えています。ベースは、基本は変えないにしても必要なものはその都度付け加えたり落としたりして管理していきたいと博物館側としては考えています。いつもでもよいのでこういう項目が必要なんじゃないかというものがあればこちらとしてもやりがいといったものに繋がりますので教えていただければと思います。

<委員> 今、この中期計画を出されておりますけど、参考値、現状値とあって目標値を設定されていますけど、この数値に満たなかった場合は？この後、総括をされていくんですか？

<事務局> 当然これによって実際目標に達しているかいないか、頑張りが足りないなというところがありましたら、その点について何らかの計画等を見直す中で頑張っていかなきゃなということになるでしょうし、ある程度達している分はもっと頑張らなきゃということになるかもしれませんし。またこのような場でご報告していこうと思っています。

<委員> 素晴らしい取り組みをされている中で、数値だけが独り歩きして目標に達していたか達していなかったと評価されてしまうことを危惧しています。背景にあるこういった取り組みの中でこういう人たちが巣立っていったということが評価されるべきであり、数値だけで評価されなかなと心配しています。皆さんの頑張りを踏まえた到達にしていっていただければなと思っています。

<議長> 一ついいですか。友の会の活動の評価はどこにありますか。縁の下の力持ちだったかどう言われたか分からないですが、活発にされているようですが・・・あっ、ありますね。

<事務局> これは博物館の中期計画であって、任意団体の友の会、車の両輪である友の会の計画ではないのです。そのうえで、協力事業も多いですし友の会の活動が活発になる、会員が増えるということになれば、博物館の事業も充実してくるということに繋がりますので、いくつかは各所に関係しているところがあります。58番の友の会会員数、あとは行事関係です。多くは友の会との共催事業で、先ほど事務局の事業計画で使用したイベントスケジュールに挙げられている自然観察会、展示を含め博物館講座など、友の会との共催の行事は非常に多いので、全部は、友の会との共催とはこの表には出ていないのですが、そのあたりの関係の評価指標というのは全て博物館と友の会の頑張りが出てくることになります。

<議長> 他に何かありますか。

<委員> 中期計画（案）の表を拝見させていただいて、いろんな意見を踏まえてちゃんとしたものが出るという感じに受け止めましたが、とりあえず完成した暁には外部的に公開する資料なのか、内々だけの資料なのでしょう。

<事務局> 基本的にはこういうものを作って、こういうのを頑張っていますというもので。数値自体はこういう格好では今までは公開していないのですが、それぞれの数値はすでに外に出ているものです。そのままの状態を出すか、また検討する必要があると思うのですが、何らかの格好で、何らかの資料で公開していこうと考えています。

<委員> すいません、一ついいですか。ちょっとお間違いかもしれませんがこの項目数です、70項目ですか、正直私も組織的なものには関わっているんですけど、自分たちの組織に照らし合わせたときに、大きな組織で役割分担していて十分なんですよというらしいのですが小さい組織で70項目の目標は果たして現実的なのかどうか。私に関わっていたら、とてもじゃないけどこんなにあつたら目標限くことに主眼が行って本来やるべき取り組むべきもって何か大事なことがあるんだろうなとそっちをものすごく・・・これは素朴な疑問なんですけども、ちょっとそういう心配があるかと。焦点がズレているのではないかと。取り越し苦労ならいいんですけど。

<委員> 数字で表されないものがあると思うのですが、数字だけが独り歩きしないかと。70項目はすごい。まあ頑張られるのかなと。目標だけを追っていかなくてはならないといった内容にならないようにして欲しいなと思うのですが。

<事務局> ご意見ありがとうございます。基本的には数字というのは表してしまうと先ほど委員さんが言われたように、非常にそれだけ独り歩きしてしまうという危険性があるというのはあるかと思えます。ただ、この数字というのは館報に載っている数字をベースに作っていますので、わかりやすい格好で出してしまうと、それはそれで言われたようなことになってしまうかと思えます。ただ、本来は博物館として何をやらなければならないかというのは、また違ったところにあるかと思えますので。そういうことをやる中でこういった数字がどう変わっていくのか、そういったところを整理しながら本来やるべきようなことをやっていかないといけないのではないかなあという風に思っておりますので。こうすることによって数字が上がっていけば、それはそれなりに成果として頑張ったんだなあ。自己満足ではないですけど、またやる気に繋がるかなあと思っているところではありますので。なかなか本当だったら自然に親しむような市民の方が増えていくというのが、一番の目標ではないかなあと私自身としては思っていますので。そういった意味でこういったことも一つの手段、ツールとして活用できたらなあと思っているところでしょうか。

<委員> 反対に、目標値でもっと上げたかった目標値ってあるんですか？個人的には計上していない47番とか49番の収蔵面積は、この館であることは仕方がないのですが、特別展なんか見てもたったあれだけのスペースしかないの、本当はもっと展示したいんだけど、あの部屋しかないからここまでしかできないとか、そういう部分があると思うんです。斜線のところも私たちとしてはもっと考えてほしいなと。

<事務局> どうしてもいろんな事業をやっていく上では、制約条件みたいなのは、我々で出来る場所と出来ない部分はどうしても。基本的に、例えば予算でもなんぼでもあったにこしたことはないのですけれども、どう配分していくか、どう全体の中でバランスをとっていくか、公立博物館としてはそういう条件は足かせになっていくかと思えますが、公立でなかったとすれば、今度はまた違った面で制約が出てくると思えますので、なかなか実際なんぼがいいのかというのは難しいところになると思えますので、今回設定が難しいなということで。

<委員> ティラノを持っているのに、それを出せないっていうのが。子供は恐竜で、すごい集客できるので、あるのに見せれないというのがもったいなくて。そのスペースないですよ、今の博物館である限りは。貸し出したら、すごいたくさん来てくれるわけじゃないですか・・やっぱりここに置いて欲しいですね。

<委員> そこがすべてにつながってきますね。

<委員> そしたら入館者数も増えるし・・。

<委員> 入館者数ちょっと増えているわけでしょう、23ページですかね、グラフでこぼこはありましたけど、右肩上がりね。ニュースといえば少子化だとか人口減少といわれている中で、それに比例するように入館者数が右肩下がりであっても不思議じゃないのに、あきらかに増えている。関心を持たれている施設、なおかつ収蔵標本数も94万点ですよ、どんどん増やしていく、だったらスペースが増えないのはおかしい。そんな疑問もあって以前倉敷市のほうにお尋ねしたことがあったのですがふるさと納税という制度があるんですね。あれで例えばターゲットを絞って、自然史博物館のこういう事業に使ってもらいたいんだけどということが出来るのかと聞いてみたら、それは出来ないと断られました。教育とか事業ということであれば受け入れられる、だけどそのお金をどう使うかは市の裁量になります、ということでちょっと残念な思いで寄付には至りませんでした。

<委員> 毎回その話が出て、教育長や倉敷市の議員さんとかに・・・。

<事務局> 以前はね、これが出来る頃にはライフパークの所へ造るとお聞きしてそこがいろいろあってやっぱりここへ残して欲しいという当時のお話もあって。ここは元々倉敷小学校だったんで、木造の校舎が建っていて、今、美術館がある所が旧市役所ということで、あそこへ本館があったのですが、今、西小学校の位置へ倉敷小学校を移して、そして庁舎を持ってきたということで。ここは水道局であったそうで、博物館の設計になっていないという・・強度とかは、ちょっと私も分からないのですが、そういういきさつもあって、色々な方にお話を聞いているのですが、これを例えば4階とかにしたら、高さ制限・・ここは景観条例にかかってくるので、ビルとかを建てるのは多分無理ですね・・ということは別に移す、そういう案も内部では色々検討していて・・。どういう方向があるか収蔵も足りないと聞いておりますし。図書館も教育委員会が管轄しているのですが、土日に図書館へ借りに来た方がいて観光客の車がずーっと並んで芸文館があふれて、もう一杯の時は西小学校も土日に使ってくださいとあって、解放していても足りないということで。市としてはこの

あたりの場所をどう考えていくか、そこは教育委員会だけでは難しいんですが。それともう一つ、自然史博物館の考え方ですが、ある考え方は市民の方にみんなに使って欲しいというもの。もう一つはライフパークに科学センターがあるんですが、子どもたちに特化した理科教育でやって欲しい。第1分野は向こうにあるのに、第2分野は離れているので非常に使い勝手が悪いと言われる学校の先生もおられるので。自然史博物館自体をどう考えていくか。市民の方もこれだけ使われている博物館も少ないのではないかと思います。ライフパークへ持っていったら、子どもが、例えば天城中の子なんか一日中あそこにいる、自分は将来何を勉強したいか自分の目標をあそこで調べるんですけれども・・・いわゆる第1分野、物理とか化学などあるんですが第2分野、自然史がないのでわざわざ天城中からこちらまで来るのは大変なんだというお話も聞きますし、どちらに主眼を置くか。そこはしっかりご意見を聞きながら。あちらへ持っていくのは相当反対、叱られたという、当時の教育委員会が、そういったお話を聞いたんですけれども。アンケートなんかとって皆さんどういうお気持ちなのか、難しいところで。例えばそこへ残っている倉敷幼稚園と倉敷小学校は隣同士であったんですよ。小学校だけ西小へ移って幼稚園だけぼつと残されて、私たちもあちらへ行きたいという希望が非常に強いのですが・・・幼稚園に車で入るのが大変らしいです。方向転換が出来ずに朝、有料駐車場に入れたら、30分無料の時間というのも少ないので、ちょっと子供さんがぐずったら大変なことになるので、出来たら西小学校の中に入れて欲しいというご要望もありますし。そこらをトータル的に一つだけというのは市としては難しいので、いろんな方のご意見を聞いて・・・この建物自体はね、これ以上、上へあがらない、例えば新築するにしても高さ制限があるんで、面積上難しい。

<事務局> もともと美術館は丹下先生の建物のことがあるので、あれはうちも保存しましょうということですが、こことは地面がつながっていますが、あれは触れないなっていう事実があります。あれを倒すわけにはいかないんで。限られたエリアの中に行くと普通は地下にもぐるなら高さを上げるしかないですけど、実はその、強い地盤ではないんですね。結構高いような建物は基礎工事から入るんですね、ちょっと調節してね1階、2階は。やっぱりここの地の利が悪いというのも駐車場が少ないということ。これはもう皆さんが言われていることで、考えながら街を造っておくと。観光地が目の前にあるから、観光に来られたお客さんとしては近い方が便利でいい、歩いて来られるからね、地の利としてはいい。逆に車で来られる市民の方かにとっては、自然史まつりの時とかはいっぱい来られて車がないからバスで来たとか、実際はこれが現実です。ティラノサウルスの展示についてはいただいた以上はあそこに入れておくわけにはいかないんで。ただ1年、2年で何とかなるものではないと思っていますので、決して忘れてはいけない、そのへんは・・・屋外にテント張って・・・そんなふうにならないと思いますんで・・・雑なことはしたくないのできっちり。

<事務局> ライフパークのプラネタリウムを新しくしたらものすごく観客を動員して。ここ

もリニューアルしたらものすごいと思います。

<委員> 今の話の流れからしたら、ここはあっちに持っていくような話ですか？

<事務局> それは、まだこれからです。

<委員> そうなってくると多分すごい反対があったと言われたように思うんですけども反対があるような気がします。やっぱり中心部にあって市民の皆様にすごい親しまれて、自然史博物館と図書館があってという中でずっと育ってきた自然史博物館。プラネタリウムや科学館と一緒に、あそこに埋蔵文化財センターも私あそこも好きでよく行かせてもらうんですけども、あそこもまた離れているといえば離れているので・・・。

<事務局> ただ一番大きいのが景観条例。中心部の子どもさんは東小っていったらマンションがいっぱい建って子どもさんが増えているんですが、西小の方はマンションが建たないんですね。老松の方がものすごい増えている。景観条例のためにやっぱりマンションが建たないので、いわゆる平面に一戸建てをここに建てるっていうのもとても無理なので・・・。

<委員> 反対意見というものがどういうものか私にはちょっと分からないのですが、やっぱり車社会になっていると思うし、反対意見もどういう反対意見だったかっていうのもちょっと考えていただきたいなと思うのですが、

<事務局> ここに寄贈していただいた方の非常に強いお気持ちがあったとお聞きしていますがもうだいぶ経ってますから、自然史博物館がどういう目的を主眼において運営していくかによって、場所もおのずと変わってくるのではないかという気がします。

<委員> 文化ゾーンというか美術館と図書館と博物館が一緒になっているというのは全国的にも珍しいと思うので文化ゾーンの施設として全体が盛り上がってほしいと思います。

<委員> それに関連してお聞きするのですが、駐車場の件でなぜ図書館に来た人は、30分とか1時間とか無料なのに、同じ文化ゾーンになる博物館はそういった手段がないのかなと。前から疑問に思っておりまして。3館共通で割り引きして欲しいと今日言おうと思ってきましたんですけど。

<委員> 確かに土日の混みようは私たちもよく知っておりまして。ここを中心に大渋滞していると分かっているのですが、せめて平日だけでも博物館に来たいというお子さん連れのお母さんとか、できれば1時間でも無料に出来たら少しでも入場者が増えるんじゃないか。ティラノがここにあれば組み立てる程ではないと思うのですが、少しでも今は先程言われました幼稚園の30分で急いでって・・・。幼稚園も含めてでもいいですから、もう1時間ぐらいいはせめて無料の券を発行出来るようにしていただけたらいいんじゃないかと思うんですが、いかがでしょうか。

<事務局> 実は美術館も一緒なんですよ、同じ敷地ですから。美術館も駐車場がない。なぜ図書館は無料にできているかというと、図書館にチェックする機械があると思うんですけど、あそこには、図書館に来られた方以外にご遠慮くださいと書いてあります。



<委員> 受付で判を押してもらってそれを図書館にもって行って見せて（観覧した方には割引きをするとか）・・・

<事務局> あと実は、駐車場は指定管理者と言いまして駐車場管理の会社に委ねています。例えばその駐車場の利用料は、指定管理者の実はここでいう収入になっています。ですからその収入に関しては、小さい細かい話になりますが、タダにしてあげてるんじゃないんですよ。例えば100円の人が、今日10人使ったら1000円。それが3ヵ月であれば3万円ですか、その3万円というお金は実は市役所から補填されているんです。そういうところがありますので、そのハンコを押してやっていくという運用ができていないから、それをすれば少し数を制限できるんですけど、のべつくまなく来ました来ましたと言われると、ものすごい金額を補填しなければいけないし。もともと停める量も実はそんなに停められないという事実がありますので、どこまでいけるかなというのがあるのですが、その成り立ちというのも、あっそういえばというくらいなので。まあ、可能な範囲で、特別展に来られた方はわかりますから、1時間無料にするとか、いいサービスではあると思います。駐車場担当がおりますので、美術館も一緒ですので、美術館も特別展をやっていますから、同じようなことができれば少しでもお客さんに来てほしいというの思いは同じですので。

<事務局> 施設については、今、市の中でもプロジェクトチームみたいなのがどういう使い方がいいのか今検討しておりますので。なかなか来年すぐというわけにもいかないのですが、市全体として使い勝手がいいように考えていますので。だけど芸文館は一杯になるんです、日曜日。市が後援をしている人については西小行ってくださいと。西小に停めていると、今度は早く来た人が芸文館に入れて有料で、西小に停めた人は無料ですから、何で後から来た人が無料で早く来た人が有料なのかと叱られて。これも善意でやっているのですが逆に叱られたりして、やっぱり法律的に全部減免にするとか。小学校でお金を取るわけにはいきませんので、公共の駐車場を使うとなったらそこも難しいところで、このあたりの駐車場に非常に困っている苦勞しているところです。

<議長> 中期計画に関してなんですけれどこれは今年始まったばかりで5年続くということで。こっちの話を聞きながら評価についても途中でお話を伺いながら皆さんのご意見をいただいていけばいいんじゃないかと思っておりますのでこの件はこれくらいでよろしいでしょうか。これだけ言っておかないとというご意見をお持ちの方は・・・よろしいですかね。

<事務局> 今日いただいた意見を踏まえて、修正できるところは修正をかせさせていただきます。運用という形になります。ありがとうございました。

3 閉会

三宅健一郎生涯学習部長の閉会あいさつ後、第28回特別展「地球の元素」を見学。

以上を、令和元年8月1日開催の令和元年度倉敷市立自然史博物館協議会議事録（要旨）とすることに同意します。

令和2年2月3日

倉敷市立自然史博物館協議会

会長 小林祥一

